



2026 年 7 月 13 日  
日本水素エネルギー株式会社  
JFE エンジニアリング株式会社

## 川崎臨海部における国内初の高圧水素パイプラインの EPC（設計・調達・建設）契約締結について

日本水素エネルギー株式会社（代表取締役社長：原田 英一、本社：東京都港区、以下「JSE」）と JFE エンジニアリング株式会社（代表取締役社長：福田 一美、本社：東京都千代田区、以下「JFE エンジニアリング」）はこのほど、川崎臨海部（以下「同臨海部」）における国内初の高圧水素パイプライン（以下「本パイプライン」）の EPC（設計・調達・建設）※1 について、契約を締結しました。

本契約は、JSE が事業主体として進めている、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）のグリーンイノベーション基金（GI 基金）事業「大規模水素サプライチェーンの構築」の一つである「液化水素サプライチェーンの商用化実証」（以下「商用化実証」）の一環として締結するものです。

川崎臨海部にある JSE の川崎 LH<sub>2</sub> ターミナル※2（以下「同ターミナル」）へ、国内で製造された水素を供給するための本パイプライン（総延長：約 4km）について、JFE エンジニアリングが設計・資機材調達・建設工事の一貫業務を担います。

本パイプラインは、GI 基金事業における商用化実証に活用される計画で、国内で製造された水素を同ターミナルへ供給します。

商用化実証完了後の社会実装フェーズにおいては、同ターミナルで海外から受け入れた液化水素を気化させ、同臨海部の需要家へ供給するための重要なインフラとなります。需要家はこれらの水素を電気や熱に変換して活用することを想定しています。また、将来の水素需要の拡大を見据え、最大で年間 100 万トン規模の水素需要にも対応可能であり、水素の大量輸送を目的とした国内初の高圧水素パイプラインとなります。



図 実証時におけるパイプラインを通した水素供給の模式図

出典：国土地理院「地理院地図」を加工して作成

JFE エンジニアリングは、パイプライン建設のトップランナーとしての豊富な実績と最先端の技術・知見を活かし、本 EPC 業務を遂行します。両社は、本パイプラインの建設を通じて、同臨海部から国内全域のカーボンニュートラル社会の実現に貢献してまいります。

※1 EPC：Engineering, Procurement, and Construction。設計・調達・建設を一括して請け負う事業方式

※2 川崎 LH<sub>2</sub>ターミナル：川崎臨海部扇島にて建設中の液化水素（LH<sub>2</sub>）受け入れ・貯蔵・供給を行うためのインフラ施設。

#### 【会社概要】

日本水素エネルギー株式会社 本社所在地：東京都港区虎ノ門一丁目2番3号

代表者：代表取締役社長 原田 英一

事業内容：水素サプライチェーン事業の実施主体として、水素サプライチェーンの構築に関連した企画・調査、水素の製造・貯蔵・運搬・供給、および発電を含む水素利活用など

ウェブサイト：<https://www.japansuisoenergy.com/>



JFE エンジニアリング株式会社

本社所在地：東京本社 東京都千代田区内幸町二丁目 2 番 3 号

代表者：代表取締役社長 福田 一美

事業内容：プラントや鋼構造物の EPC（設計・調達・建設）、製造、運営事業など

ウェブサイト：<https://www.jfe-eng.co.jp/>

【本件に関するお問い合わせ先】

日本水素エネルギー株式会社 広報

Email：[info\\_jse@japansuisoenergy.com](mailto:info_jse@japansuisoenergy.com)